



平成19年5月17日

各 位

株式会社 T & D ホールディングス
 (コード番号 8795 東証・大証第一部)
 太陽生命保険株式会社
 大同生命保険株式会社
 T&Dフィナンシャル生命保険株式会社

「平成19年3月期決算(案)」のお知らせ

T&D保険グループ (T&Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命) の平成19年3月期 (平成18年4月1日～平成19年3月31日) の決算(案)について以下のとおりお知らせいたします。

契約業績

- 生命保険会社3社合算の契約業績 (個人保険・個人年金保険) は、
 新契約高は、6兆6,347億円、前年から9.0%の減少、
 解約失効高は、5兆3,625億円、前年から5.1%の増加、
 保有契約高は、59兆8,999億円、前年度末から0.6%の減少となりました。

損益関係 (T&Dホールディングス連結)

- 経常収益は2兆2,860億円となり、前年から6.5%の減少、
 うち、保険料等収入は、1兆8,115億円、前年から4.8%の減少となりました。
- 経常利益は1,581億円、前年から15.6%の増加、
- 当期純利益は387億円、前年から9.1%の増加となりました。

契約者配当

- 契約者配当は、太陽生命・大同生命で増配します。

株主配当

- 1株当たり年間配当金は65円と、前期より10円増配を予定しています。

以上

【お問合せ先】

株式会社T&Dホールディングス	広 報 部	関山 恵太	TEL 03-3434-9198
太陽生命保険株式会社	広 報 部	長嶺 秀一	TEL 03-3434-5257
大同生命保険株式会社	広 報 課	古谷 和俊	TEL 03-3434-9190
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社	広 報 課	稲生 英司	TEL 03-3434-8840

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
新契約高	66,347	9.0%減	21,273	25.0%減	43,278	0.8%増	1,795	10.3%増
解約失効高 (解約失効率)	53,625	5.1%増	15,038 (8.55%)	8.5%減 1.14ポイント低下	36,158 (9.04%)	18.9%増 1.38ポイント上昇	2,427 (9.11%)	42.0%減 5.26ポイント低下
保有契約高	598,999	0.6%減	176,445	0.3%増	397,320	0.7%減	25,233	5.3%減
新契約年換算保険料	1,430	3.9%増	366	12.3%減	834	0.7%増	229	76.4%増
うち医療保障・ 生前給付保障等	170	7.8%減	131	7.9%減	38	0.6%減	0	100.0%減
保有契約年換算保険料	14,471	0.5%減	6,628	4.7%減	6,922	1.1%増	920	24.2%増
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,774	0.2%減	1,121	2.4%増	585	3.4%減	67	12.6%減

(注)新契約高には転換による純増加高を含みます。

<3社単純合算>

- ・新契約高は、6兆6,347億円、前年から9.0%減少しました。
- ・解約失効高は、5兆3,625億円、前年から5.1%増加しました。
- ・保有契約高は、59兆8,999億円となり、前年度末から0.6%減少しました。

○太陽生命

- ・新契約高は、営業活動において解約失効の未然防止に注力したことなどにより、2兆1,273億円、前年から25.0%の減少。
- ・解約失効高は、1兆5,038億円、前年から8.5%の減少。
解約失効率は、8.55%、前年から1.14ポイントの低下。
- ・保有契約高は、17兆6,445億円、前年度末から529億円、0.3%の増加。
うち個人保険は、1兆3,820億円、前年度末から2,483億円、1.8%の増加。
新契約高は減少したものの、解約失効高が減少しており、保有契約高は引き続き増加。
- ・保有契約年換算保険料は6,628億円、前年度末から4.7%の減少。
うち医療保障・生前給付保障等は、1,121億円、前年度末から2.4%の増加。

○大同生命

- ・新契約高は、4兆3,278億円、前年から0.8%の増加。
うち、主力の個人定期保険は、4兆1,419億円、前年から1.5%の増加。
- ・解約失効高は、3兆6,158億円、前年から18.9%の増加。
解約失効率は、9.04%、前年から1.38ポイントの上昇。
これは主にキャッシュバリュー型定期保険の解約が増加したため。
- ・保有契約高は、39兆7,320億円、前年度末から2,759億円、0.7%の減少。
- ・保有契約年換算保険料は、6,922億円、前年度末から1.1%の増加。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、1,795億円、前年から10.3%の増加。
うち、変額個人年金保険は、1,795億円、前年から39.5%の増加。
- ・解約失効高は、2,427億円、前年から42.0%の減少。
解約失効率は、9.11%、前年から5.26ポイントの低下。
- ・保有契約高は、2兆5,233億円、前年度末から1,420億円、5.3%の減少。
ただし、変額個人年金保険の保有契約高は6,215億円、前年度末から1,620億円、35.3%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は920億円、前年から24.2%増加。

[損益関係]

(単位：億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当連結 会計年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
経常収益	22,860	6.5%減	10,120	6.0%減	10,618	0.1%減	2,661	14.8%減
うち保険料等収入	18,115	4.8%減	7,055	14.3%減	8,652	0.7%減	2,407	15.7%増
うち資産運用収益	4,074	12.5%減	2,118	7.0%増	1,833	1.5%増	171	81.4%減
経常費用	21,278	7.8%減	9,603	6.7%減	9,405	2.3%減	2,796	13.9%減
うち保険金等支払金	16,306	6.6%減	7,728	9.8%減	7,582	4.3%減	995	2.5%増
うち資産運用費用	1,152	11.7%増	703	28.2%増	441	5.5%減	47	8.4%減
経常利益(△損失)	1,581	15.6%増	516	10.0%増	1,212	21.9%増	△135	10.5%増
特別利益	22	21.2%増	39	886.0%増	30	221.9%増	6	52,385.9%増
特別損失	353	10.2%減	186	6.4%減	158	4.3%減	9	65.2%減
契約者配当準備金繰入額	564	27.0%増	150	5.6%減	400	46.7%増	13	11.3%増
税引前当期純利益(△損失)	686	25.0%増	219	90.5%増	684	21.0%増	△152	5.8%減
法人税及び住民税等	297	54.4%増	85	64.2%増	252	45.0%増	△45	5.2%減
当期純利益(△損失)	387	9.1%増	134	112.3%増	431	10.4%増	△107	6.1%減

(注) 1. T&Dホールディングス連結の数値については、生命保険会社3社の単純合算とは一致いたしません。

2. 法人税及び住民税等は、法人税等調整額を含んでおります。

3. 生命保険会社3社の保険料等収入の単純合算は18,115億円です。

<T&Dホールディングス連結>

- ・ 経常収益は、2兆2,860億円、前年から6.5%減少となりました。
- ・ 経常利益は、1,581億円、前年から15.6%増加となりました。
- ・ 当期純利益は、387億円、前年から9.1%増加となりました。

○太陽生命

- ・ 保険料等収入は、主に団体年金保険の収入保険料の減少により、7,055億円、前年から14.3%の減少。
- ・ 資産運用収益は、利息及び配当金等収入の増加及び有価証券売却益の増加などにより、2,118億円、前年から7.0%の増加。
- ・ 保険金等支払金は、満期保険金の支払い金額の減少などにより、7,728億円、前年から9.8%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に有価証券売却損の増加により、703億円、前年から28.2%の増加。
- ・ 経常利益は、516億円、前年から10.0%の増加。
- ・ 特別利益は、主に関連会社株式売却益により、39億円、前年から886.0%の増加。
- ・ 当期純利益は、134億円、前年から112.3%の増加。

○大同生命

- ・ 保険料等収入は、主に団体年金保険の収入保険料の減少により、8,652億円、前年から0.7%の減少。うち、主力の個人定期保険の収入保険料は、5,440億円、前年から3.4%の増加。
- ・ 資産運用収益は、主に利息および配当金等収入の増加により、1,833億円、前年から1.5%の増加。
- ・ 保険金等支払金は、主に団体年金保険の支払金の減少により、7,582億円、前年から4.3%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に金融派生商品費用の減少により、441億円、前年から5.5%の減少。
- ・ 経常利益は、1,212億円、前年から21.9%の増加。
- ・ 特別利益は、主に関連会社株式売却益により、30億円、前年から221.9%の増加。
- ・ 契約者配当準備金繰入額は、契約者配当の増配などにより、400億円、前年から46.7%の増加。
- ・ 当期純利益は、431億円、前年から10.4%の増加。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・ 保険料等収入は、主に変額個人年金保険の新契約増加により、2,407億円、前年から15.7%の増加。
- ・ 資産運用収益は、主に特別勘定資産運用益の減少により、171億円、前年から81.4%の減少。
- ・ 保険金等支払金は、主に解約返戻金の増加により、995億円、前年から2.5%の増加。
- ・ 資産運用費用は、主に変額個人年金保険の最低保証リスクに対応するヘッジ損(金銭の信託運用損)の減少により、47億円、前年から8.4%の減少。
- ・ 経常損失は、135億円、前年から12億円の損失拡大。これは主に変額個人年金保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額が増加したため。
- ・ 当期純損失は、107億円、前年から6億円改善。

[その他の指標等]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
基礎利益	1,733	36.2%増	539	41.3%増	1,257	30.9%増	△64	8.2%減
逆ざや額			246	138減	—(注)	—	41	1減

(注)大同生命は83億円の順ざやとなっております。

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減
ソルベンシー・マージン比率			1,100.4%	55.2ポイント上昇	1,320.4%	66.0ポイント上昇	1,203.7%	744.0ポイント低下
実質純資産	20,076	1,232増	8,346	770増	11,095	471増	635	10減
有価証券差損益(一般勘定)	10,453	77減	4,996	330増	5,463	414減	△7	6増
うち公社債	258	383増	82	315増	186	51増	△10	16増
うち株式	6,742	729減	4,256	231減	2,485	496減	—	2減
うち外国証券	637	306増	538	292増	98	13増	0	0増
うちその他の証券	2,524	14増	129	60減	2,393	83増	2	7減
うち金銭の信託	297	79減	—	—	297	79減	—	—
土地等の差損益	288	384増	116	162増	171	221増	—	—

- (注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しています。また、金銭の信託内で保有する有価証券のうち、売買目的有価証券以外のものの差損益を記載しています。
2. 土地等の差損益については、太陽生命は鑑定評価額及び公示価格等、大同生命は原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格)をもとに算出しています。
3. エンベディッド・バリュー(EV)は、3社合算が2兆1,333億円(前年度末比1,405億円増)、太陽生命が7,855億円(同676億円増)、大同生命が1兆2,875億円(同819億円増)、T&Dフィナンシャル生命が602億円(同90億円減)です。詳しくは、「平成19年3月末エンベディッド・バリューの開示について」をご参照ください。

<3社単純合算>

- ・基礎利益は、利息及び配当金等収入の増加等により1,733億円となり、前年から36.2%増加しました。
- ・実質純資産は、2兆76億円となり、前年度末から1,232億円増加しました。
- ・有価証券差損益は、1兆453億円となり、前年度末から77億円減少しました。

○太陽生命

- ・基礎利益は、539億円、前年から41.3%の増加。
逆ざや額は、246億円、前年から138億円の減少。
これらは主に利息及び配当金等収入が増加したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,100.4%、前年度末から55.2ポイントの上昇。
実質純資産は、8,346億円、前年度末から770億円の増加。
これらは主に、価格変動準備金及び危険準備金を積み増したことによる。
- ・有価証券差損益は、主に公社債の差損益が金利低下及び入替により、前年度末から315億円増加したことなどから、4,996億円、前年度末から330億円の増加。

○大同生命

- ・基礎利益は、1,257億円、前年から30.9%の増加。
逆ざや額は、前年の逆ざや293億円から、83億円の順ざやに転じた。
これらは主に、利息及び配当金等収入が増加したことや、ヘッジファンドの分配金が増加したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,320.4%、前年度末から66.0ポイントの上昇。
実質純資産は、1兆1,095億円、前年度末から471億円の増加。
- ・有価証券差損益は、5,463億円、前年度末から7.0%の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、△64億円。前年から8.2%の減少、5億円の改善。
- ・逆ざや額は、41億円、前年から1億円の減少。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、主に変額個人年金保険の保有契約高が増加していることに伴う最低保証リスク相当額の増加により1,203.7%、前年度末から744.0ポイントの低下。
実質純資産は、635億円、前年度末から10億円の減少。
- ・有価証券差損益は、△7億円、前年度末から6億円の改善。

[平成20年3月期通期業績予想]

○T&Dホールディングス連結

平成20年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	平成19年3月期実績	平成20年3月期予想	増減率(%)
経常収益	22,860	21,800	4.6%減
経常利益	1,581	1,300	17.8%減
当期純利益	387	370	4.6%減

1株当たり年間配当金予想は65円です。

なお、上記の前提となる生命保険会社3社(単体)の平成20年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
経常収益	9,000 (11.1%減)	9,900 (6.8%減)	3,500 (31.5%増)
経常利益(△損失)	520 (0.7%増)	930 (23.3%減)	△200 (47.8%増)
当期純利益(△損失)	120 (10.6%減)	370 (14.3%減)	△140 (30.6%増)

(注) 括弧内は平成19年3月期からの増減率です。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

以上

(参考) 生命保険会社3社の平成20年3月期通期見通し

(単位：億円)

	3社合算	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
基礎利益	1,600 (7.7%減)	560 (3.7%増)	1,150 (8.6%減)	△110 (70.4%増)
保険料等収入	18,300 (1.0%増)	6,400 (9.3%減)	8,500 (1.8%減)	3,400 (41.2%増)
逆ざや額		230 (6.7%減)	30 (-)	40 (2.9%減)
新契約高	66,600 (0.4%増)	20,200 (5.0%減)	43,500 (0.5%増)	2,900 (61.5%増)
保有契約高	599,700 (0.1%増)	177,000 (0.3%増)	397,700 (0.1%増)	25,000 (0.9%減)
解約失効率 (%)		8.0 (0.55ポイント低下)	8.5 (0.54ポイント低下)	7.6 (1.51ポイント低下)

(注) 1. 括弧内は平成19年3月期からの増減率です。

2. 新契約高、保有契約高及び解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。

また、新契約高には転換による純増加を含みます。

3. 大同生命保険株式会社 of の逆ざや額について、平成18年度は83億円の順ざやとなっております。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績見通しと大きく異なることがあります。

(参考) 契約者配当

○太陽生命

①個人保険・個人年金保険

毎年お支払いする通常の配当金

利差配当・・・責任準備金に対して前年度より0.20ポイント引き上げます。

予定利率2%以下 1.95%－予定利率（前年度：1.75%－予定利率）

予定利率2%超、4%以下 1.75%－予定利率（前年度：1.55%－予定利率）

予定利率4%超 1.55%－予定利率（前年度：1.35%－予定利率）

ただし、平成13年4月2日以降成立の終身保険で一時払の契約について、配当を0とします。

死差配当・・・前年度より引き上げます。引き上げ幅は、被保険者の年齢、性別、予定死亡表の区分および加入時からの経過年数により異なります。

費差配当・・・前年度より据え置きます。

災害疾病関係特約等に対する配当・・・前年度より据え置きます。

消滅時などにお支払いする特別配当金

前年度に引き続き実施しますが、下記のとおり一部変更します。

消滅時配当（責任準備金比例）・・・開始年度を1年繰り下げます。

消滅時配当（保険料比例）・・・前年度より据え置きます。

疾病健康配当・・・前年度より引き上げます。

10年以上経過して消滅かつ給付金支払のない疾病保障特約等について入院給付金日額1,000円につき1,200円
（前年度：入院給付金日額1,000円につき1,000円）

②団体保険

利差配当・・・個人保険・個人年金保険同様に引き上げます。

死差配当・・・前年度より据え置きます。

費差配当・・・前年度より据え置きます。

③団体年金保険

利差配当・・・前年度より据え置きます。

予定利率1.00% 0.40%（前年度：0.40%）

企業年金保険・新企業年金保険・
厚生年金基金保険・国民年金基金保険・
団体生存保険および新団体生存保険
確定給付企業年金保険

予定利率1.25% 0.40%（前年度：0.40%）
（払戻調整金あり）

予定利率1.25% 0.15%（前年度：0.15%）
（払戻調整金なし）

拋出型企業年金保険

○大同生命

①個人保険・個人年金保険

・利差配当は、責任準備金に対して前年度より0.20ポイント引き上げます。

予定利率2%以下 2.05%－予定利率（前年度：1.85%－予定利率）

予定利率2%超、4%以下 1.85%－予定利率（前年度：1.65%－予定利率）

予定利率4%超 1.65%－予定利率（前年度：1.45%－予定利率）

ただし、一時払のご契約（一部の契約は除きます）は、前年水準を据え置きます。

・死差配当は、配当率を引き上げます。引き上げ幅は、被保険者の年齢、性別、予定死亡表の区分および加入時からの経過年数により異なります。

・費差配当は、前年水準を据え置きます。

・災害疾病関係特約等に対する配当は、据え置きます。

・消滅時配当は、前年水準を据え置きます。

②団体保険

・利差配当は、個人保険・個人年金保険同様に引き上げます。

・死差配当及び費差配当は、前年水準を据え置きます。

③団体年金保険

利差配当・・・前年度より増配します。

予定利率1.25% 0.15%（前年度：0.05%）

企業年金保険・新企業年金保険・
拋出型企業年金保険・厚生年金基金保険・
国民年金基金保険・団体生存保険および
新団体生存保険
確定給付企業年金保険

予定利率1.25% 0.25%（前年度：0.05%）
（解約控除あり）